

Fukushi Niigata

卷頭特集

- 福祉の拠点訪ねてー新潟市北区「太陽の村」
- 自殺をなくそう

9月号
2025
第877号



絵「トキ」 作・新井 里沙（加茂市）
作品よもやま―数多く描いたトキの絵。その中で最も褒められる一枚



思い共有、明日の力に

巻頭特集

絆広がる「認知症の人と家族の会」

公益社団法人「認知症の人と家族の会」のホームページによると、同会は1980年（昭和55年）、「呆け老人をかかえる家族の会」として京都で結成されました。介護に苦勞する家族たちが体験や思いを共有し、互いに励まし合っているように集ったのが始まりです。

「国際アルツハイマー病協会」に加盟し、現在は47都道府県全てに支部があります。「認知症でも安心して暮らせる社会」を目指し、国に要望したり啓発活動を行ったり、さまざまなかたちで発信を続けています。新潟県支部は1996年（平成8年）、上越地域の仲間たちによって結成されました。その後、全県に広がって現在会員は約300人。県内各地でほぼ毎月「つどい」を開いています。表参照。県支部代表の金子裕美子さん（73）は「糸魚川市は『どんな人も介護のさ』と呼び掛けています。中は悪戦苦闘しています。苦勞をマイナスと感じることも多いでしょうが、それは自分の人生を豊かにしてくれることでもある。互いにつながつて、経験を次に伝えてもらいたいですね」と呼び掛けています。

「認知症の人と家族の会」新潟県内のつどい（予定）

地区	日時	会場	連絡先
糸魚川	おおむね毎月第1土曜 13:30～15:00	糸魚川こころの総合ケアセンター	金子さん 025-552-3215
上越	毎月第3土曜 13:30～15:30	上越市市民プラザ	田中さん 090-1423-0675
頸北	毎月第4土曜 10:00～11:00	上越市 かきざき福祉センター	小関さん 025-536-9150
三条	毎月第2土曜 13:30～15:30	三条市中央公民館	山谷さん 0256-38-6325
長岡	毎月第2土曜 13:30～15:30	長岡市中央図書館	神保さん 0258-34-6568
新潟	毎月第2土曜 13:30～16:00	新潟市総合福祉会館	等々力さん 025-269-2282
新発田	毎月第2水曜 13:30～15:00	(新発田市オレンジカフェ「Dカフェ」) 新発田市「寺町たまり駅」	小林さん 080-5080-5360
佐渡	毎月第2水曜 10:00～12:00	家族の会 佐渡事務所	川原さん 090-3087-1125

※認知症患者の家族らが語り合う集いは、このほかにも各地で開かれています。

9月「認知症月間」（世界アルツハイマー月間）。認知症になると、本人はもちろん、介護する家族にも大きな負担がかかることになります。悩みや苦しみを一人で抱え込まず、情報を共有することで互いに安心して暮らせる社会を目指す公益社団法人「認知症の人と家族の会」の活動にスポットを当て、認知症と向き合い付き合う方策を探りました。

「認知症」早期発見のめやす

《出典／公益社団法人認知症の人と家族の会》

日常の暮らしの中で、認知症ではないかと思われる言動を、「家族の会」の会員の経験からまとめたものです。医学的な診断基準ではありませんが、暮らしの中での目安として参考にしてください。

●もの忘れがひどい

- ☐ 1. 今切ったばかりなのに、電話の相手の名前を忘れる
- ☐ 2. 同じことを何度も言う・問う・する
- ☐ 3. しまい忘れ置き忘れが増え、いつも探し物をしている
- ☐ 4. 財布・通帳・衣類などを盗まれたと人を疑う

●判断・理解力が衰える

- ☐ 5. 料理・片付け・計算・運転などのミスが多くなった
- ☐ 6. 新しいことが覚えられない
- ☐ 7. 話のつじつまが合わない
- ☐ 8. テレビ番組の内容が理解できなくなった

●時間・場所がわからない

- ☐ 9. 約束の日時や場所を間違えるようになった
- ☐ 10. 慣れた道でも迷うことがある

●人柄が変わる

- ☐ 11. ささいなことで怒りっぽくなった
- ☐ 12. 周りへの気づかいがなくなり頑固になった
- ☐ 13. 自分の失敗を人のせいにする
- ☐ 14. 「このごろ様子がおかしい」と周囲から言われた

●不安感が強い

- ☐ 15. ひとりになると怖がったり寂しがったりする
- ☐ 16. 外出時、持ち物を何度も確かめる
- ☐ 17. 「頭が変になった」と本人が訴える

●意欲がなくなる

- ☐ 18. 下着を替えず、身だしなみを構わなくなった
- ☐ 19. 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった
- ☐ 20. ふさぎ込んで何をしても億劫がりいやがる

《いくつか思い当たることがあれば、一応専門家に相談してみることがよいでしょう。》

9月は「認知症月間」

認知症、家族もつらい



「認知症の人と家族の会」のつどいで、グループに分かれて語り合う参加者たち。悩みを打ち明けたり、施設の使い方などをアドバイスしたり、話は尽きなかった＝7月12日・新潟市総合福祉会館

毎朝戦場、振り回されて

「仲間がいたから今がある」

新潟市中央区の新潟市総合福祉会館で7月12日に開かれたつどいに参加して、認知症の家族の介護に奮闘している人や、みとりを終えた人の声に耳を傾けました。

つどいには一般市民のほか県や市の関係者らも含め約20人が参加しました。

「今も妻のことを思い出して自分を取り戻せない。どうしたら立ち直ることができなのか、先輩から教えていただきたい」。5月に認知症の妻を亡くした中高年のA男さんは、声を振り絞るように胸の内を語りました。

これに対し、60代のB子さんは「日々の営みを淡々とする中で次第に癒えてい

くと思う。自然な気持ちで穏やかに過ごしていただきたい」と言葉をかけました。

要介護2の認知症の母を介護している60代のC男さんは「母はもともと心配性だったが、認知症で極端になった。朝デイサービスに行くまで戦争みたい。私への干渉もひどい。振り回されて困っている」と訴えました。

これに対しては「一人で介護するのは限界なので。サービスの使い方などで希望があれば聞かせてほしい」というアドバイスがあり、その後はデイサービスのサやショートステイの特

色、小規模多機能型のメリット、ケアマネジャーとの付き合い方などに話が広がっていました。

60代のD子さんは「認知症の母の対応でどうしたらいいかわからず困っていた時、このつどいで皆さんからいろいろ教えていただいた。母が生きてそこにいてくれるだけでありがたい」と心境を語りました。

長年にわたって母を介護し、みとった70代のE男さんは「母を尊敬していたし、母も自分がそばにいて安心してくれて、お互い幸せだったと思う」とした上で、「同じ立場で気持ちや体験を分かち合える人たちがいたから、やってこられた。この会に巡り合えたのは母のおかげだと思う」と穏やかに振り返っていました。



4面に「認知症の人と家族の会」新潟県支部代表・金子裕美子さんのインタビューを掲載しています。

介護保険考える講演会

9月20日・新潟市

認知症の人と家族の会新潟県支部は9月20日、世界アルツハイマーデー記念講演会を新潟市中央区の新潟ユニゾンプラザで開きます。

「介護保険 これまで、これから～くい止めよう！介護崩壊～」と題し、NPO 法人暮らしネット・えん代表理事の小島美里さんが講師を務め、これからの介護保険の在り方などについて考えます。

午後1時30分～3時30分。定員130人。参加無料。申し込み、問い合わせは県支部代表の金子裕美子さん、025 (550) 6640へ。

9月は「認知症月間」

お互い楽になればいい

友人との電話が生きる力に

義父、実母、そして夫の介護を長年続けてきました。義父は脳血管性認知症で、突然怒り出したり夜中に家を出て行ったり、当時はつらかったですね。

夜になると、友人によく電話しました。自分の苦しさを聞いてくれる人の存在が、どれほど生きる力になったことか。私が誰からも悩みを打ち明けられず、自分の力を総動員して聞いてあげたいです。

介護しながら「認知症の人と家族の会」の仕事をこなすことも救いになりました。介護する人は、要介護



「お互いが楽になれる方法を考えましょう」という金子裕美子さん
＝糸魚川市

認知症の人と家族の会 新潟県支部代表 金子裕美子さん(糸魚川市)に聞く

者から離れて自分の時間を作ることがとても大事だと思っています。

義父の介護で、転機になった出来事があります。ある時、夜外に出るのは「寝たきりになると家族に迷惑

怒る自分を責めないで

認知症の介護をしていると、どうしても怒鳴ったり怒ったりしてしまいますよね。それは当たり前前の感情なんです。怒ってしまう自分がだめだとは考えないでください。

大事なのは、介護者も要介護者も互いに楽になるためにはどうすればいいかを考えることです。

要介護者の行動に「だめ」という場面をいかに減らすか。要介護者の気持ちやどこにあるのかを考えるといいでしょう。楽しいことは脳を活性化するといえます。

をかけるから、散歩して体を鍛えている」と言ったんです。嫌がらせだと思っていた行動は「迷惑をかけたくない」という思いからだっただけですね。それを知った瞬間、義父を悪者にしていた自分に気づき、義父が喜ぶことを見つけたのが楽しくなりました。

褒めたり感謝したりすることも大事だと思います。

認知症基本法に基づき、国は「新しい認知症観」を広めようとしています。認知症になっても、住み慣れた地域で仲間とつながり、希望を持って生きられる社会にしようというものです。高齢者の認知症は広い意味で老化現象の一つと捉えればよいと思います。やみくもに避けるのではなく、もっと大らかに受け止める体制が作れるといいですね。

認知症のこと、ひとりで悩んでいませんか？ ～お気軽にご相談ください～

新潟県認知症
コールセンター

相談電話

025-281-2783

にいがたなやみ

【所在地】〒950-8575 新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階(来所相談も可)
【相談時間】月曜日～金曜日(祝日・年末年始を除く) 9:00～17:00

シニアカレッジ公開講座開催

令和7年度・受講生募集

	日時	会場	講座内容
新潟会場	9月23日 (火・祝) 13:30～ 15:30	新潟ユニゾンプラザ2 階「多目的ホール」 (定員300名・先着順)	『心を豊かにする音楽のススメ ～西洋と日本で紡がれた美しき調べ～』 ▶講師：新潟県立大学 人間生活学部子ども学科 教授 石井 玲子 氏 ▶ヴァイオリン：佐々木 友子 氏 ▶ソプラノ：平野 佳恵 氏 ▶申込締切：9月16日(火) ▶申込方法：右記二次元コードより申込み ▶留意事項：受講決定通知の送付はありません。申込み後、直接会場にお越しください。
長岡会場	9月27日 (土) 13:30～ 15:30	アトリウム長岡2階 「白鳳・天平の間」 (定員80名・先着順)	『お口の健康でハッピーライフ!』 ▶講師：新潟大学大学院医歯学総合研究科 教授 葭原 明弘 氏 ▶申込締切：9月9日(火) ▶申込方法：右記二次元コードより申込み ▶留意事項：受講決定通知を9月17日(水)までに郵送します。
上越会場	9月20日 (土) 11:30～ 13:00	高田城址公園オーレン プラザ1階 「研修室・会議室」 (定員50名)	『幸せフィナーレへ～今から始める私の終活』 ▶講師：一般社団法人はまなす 代表理事 秋山 貴子 氏 ▶申込締切：9月2日(火) ▶申込方法：右記二次元コードより申込み ▶留意事項：応募多数の場合は抽選とし、開催1週間前をめどに参加証を郵送します。 ※本講座は「福祉・介護・健康フェア 2025 in 上越」との同時開催事業となります。 イベント詳細は、https://www.fkkfair-niigata.jp/よりご確認ください。

「シニアカレッジ新潟」では、令和8年度の受講生募集再開に向け、県内3会場で公開講座を開催します。一般県民の皆様幅広く本学を知っていただく機会になればと思います。受講に当たり年齢は問いません。受講料

はいずれも無料です。
シニアカレッジや講座の詳細はホームページ、または新潟県社会福祉協議会1025(285)1400まで。
詳細はこちら



捨てる覚悟

震災で甚大な被害を受けた地域にあるその施設は、流木やがれきなどの災害ごみを活用して造られており、見た目はなかなかクセが強い。しかし、いざ泊ってみると不思議な居心地のよさがあった。
施設のオーナーの言葉が印象に残っている。「人は心が手いっぱいだと新しい何かを

あったかどうかわからない梅雨が明けて間もない7月中旬、夏休みを取って長い旅に出た。職場には迷惑をかけたと思うが、充実した気分転換ができたことに感謝したい。旅の最終日、とある施設に宿泊した。14年前の東日本大

ずむ
2025
Vol.84

新たな自分に出会う道

始めることはできません。大切なものを捨てるには覚悟が必要ですが、そうして生まれた余白に新しい自分を描いていけるのです」

実際、過去に訪れた人たちが手放した大切なものが施設に陳列されていた。その光景はまるで神社の絵馬のようで、かつての持ち主たちの想いが伝わってくるようだった。

とはいえ、簡単に捨てられないからこそ大切なのである。私自身、心に浮かんだものがありながら、滞在中にそれを捨てることはできなかった。

それでも、この先で道に迷うことがあれば、思い切って「捨てる」という選択肢を持ちたいと思う。きっと、それが新しい自分との出会いにつながるっているだろうから。

期せずして哲学的で記憶に残る体験をした夏だった。

(KILIN)

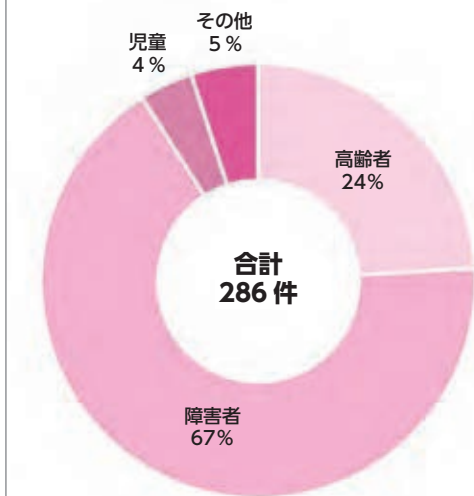


※県社会福祉協議会スタッフが、日々の体験や思いなどをつづります。

福祉サービスの苦情・相談

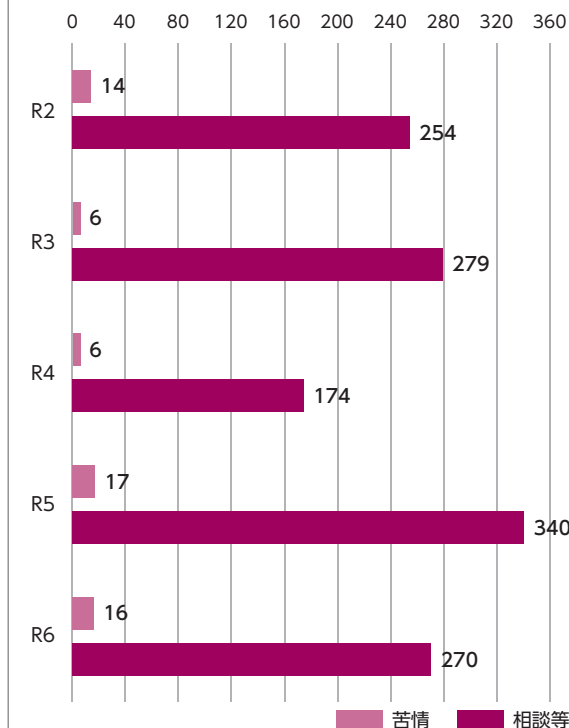
運営適正化委 令和6年度

サービス分野別の苦情・相談



－グラフ2－

苦情・一般相談受付件数（年度別）



－グラフ1－

苦情横ばい16件、相談減少270件

新潟県福祉サービス運営適正化委員会に令和6年度の1年間に寄せられた「苦情・相談」の状況がまとまりました。

令和6年度は、苦情が16件、相談が270件の合計286件でした。苦情はほぼ横ばいでしたが、相談は前年度の340件から大幅に減少しました（グラフ1参照）。

令和5年5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行から1年以上が経過し、施設の対応や職員との関係が以前の状況に戻ったことなどが理由として考えられます。

また、特定の申出人からの相談は、前年に引き続き多く見られました。

全国的な状況としては、苦情受付総数は、前年度から約6%増加しており、過去5年間、一貫して増加しています。

東京都や大阪府など都市部では、苦情の件数が相談件数を大きく上回っています。相談件数では、新潟県は東京都や大阪府よりも多く、全国第6位の件数になっています。

特養などの高齢者施設、訪問介護、障害者の支援施設、こども園 など

職員が
お願いや苦情を
聞いてくれない

職員の言葉遣いや
言い方がキツく
嫌な思いをしている

施設内でケガをしたが
職員の説明や対応に
納得できない

福祉サービスについて、事業者にも相談しても解決しない、また、話しにくい場合は

新潟県福祉サービス運営適正化委員会

〒950-8575 新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階

TEL.025-281-5609

相談無料 秘密厳守

FAX.025-281-5610

メールアドレス kujou@fukushiniigata.or.jp

分野別

前年度の「苦情・相談」について、サービス分野別（グラフ2参照）とその内容別に見てみます。

【高齢者】主に「特別養護老人ホーム」や「訪問介護・通所介護」が多数を占めました。一方、福祉サ―

ビス以外の「老人保健施設」「サービス付き高齢者住宅」の相談も一定数見られました。

【障害者】この分野は、令和5年度と同様、全体の7割近くを占めています。

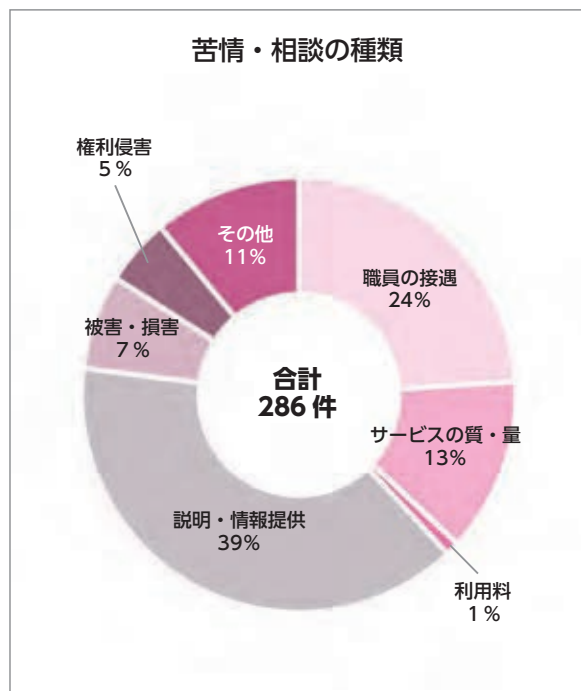
「就労継続支援A型」「就労継続支援B型」が多く占めています。就労移行支

「職員からの説明・情報提供」が4割

種類別

苦情・相談の種類で見る

と、前年度同様、職員からの説明や情報提供に関するものが約4割を占めまし



－グラフ3－

援事業所についても苦情や相談が寄せられています。

【児童】「放課後等デイサービス」と「保育所」がそのほとんどを占めています。

【その他】市町村社会福祉協議会が運営する「日常生活自立支援事業」についての苦情・相談が比較的多く見られました。

た。続いて言葉遣い、関わり方など「接遇」に関するものが2割を超え、サービスの質などに対する苦情や相談が約1割となっています（グラフ3参照）。

各事業所で苦情に適切に対応するためには、苦情解決の体制を整え、手順を定めるなど仕組み作りが必要になります。

運営適正化委員会では、事業所の所内研修で使用できる資料やポスターを提供しています。ポスターは施設内に掲示して、苦情受付担当者や苦情解決責任者、

第三者委員について周知する内容です。ご連絡をいただければ、無料でお送りします。

ポスターは、氏名や電話

番号などが直接書き込みできるワード形式のデータが、ホームページからもダウンロードできるようになっています。



新潟県福祉サービス運営適正化委員会へのメールアドレス登録はこちらの二次元コードから

お知らせ

来年2月研修会詳しくはHPで

今年度の「苦情解決責任者研修会」は、令和8年2月に新潟市で開催する予定です。まだ受講していない事業所の管理者の方などがおられましたら、ぜひご参加ください。12月にホームページで詳細を案内します。

研修会の案内などは、今後、文書での送付に代わり、メール送信とホームページでの情報発信に切り替える予定です。

このページ内の二次元コードからメールアドレスを登録すると、研修会の案内のメールが届くようになります。

事業所単位での登録も可能ですので、ご協力をお願いします。

令和7年度

ホームページでも内容を紹介しています
https://www.fukushihoken.co.jp

全社協 保育所・認定こども園の損害補償

スケールメリットを活かした充実した補償と割安な保険料です。



◆ 加入対象は社会福祉法人等が運営する認可保育所、認定こども園

セットプラン

保険金額	基本セットプラン	天災セットプラン
身体賠償（1名・1事故）	1億円・7億円	2億円・10億円
財物賠償（1事故）	1,000万円	1,000万円
受託・管理財物賠償（期間中） うち現金支払限度額（期間中）	200万円 20万円	200万円 20万円
人格権侵害（期間中）	1,000万円	1,000万円
事故対応特別費用（期間中）	500万円	500万円
被害者対応費用	1名につき 5万円限度 1事故 10万円限度	
死亡保険金	121.2万円	108万円
後遺障害保険金	程度に応じて死亡保険金額の4%～100%	
入院保険金（1日あたり）	1,700円	1,500円
手術保険金	入院中の手術：入院保険金日額の10倍 外来の手術：入院保険金日額の5倍	
通院保険金（1日あたり）	1,100円	1,000円
天災補償	なし	あり

基本セット補償保険料計算例 100名で加入の場合	
賠償	29,300円
傷害 870円 ×100名 ×1口	87,000円
合計	116,300円

セットプランを
おすすめします!!



個別プラン

プラン1 保育所業務の補償

① 基本補償

- オプション1 ● 地域子育て支援拠点事業等補償
- オプション2 ● 保育所の借用不動産賠償事故補償
- オプション3 ● 看護職の賠償責任補償
- オプション4 ● クレーム対応サポート補償

② 個人情報漏えい対応補償

③ 保育所の什器・備品損害補償

プラン2 保育所利用者の補償

- ① 園児の傷害事故補償
- ② 来園者の傷害事故補償
- ③ 園児送迎車搭乗中の傷害事故補償

プラン3 職員等の補償

- ① 職員の労災上乗せ補償
使用者賠償責任補償
- ② 役員・職員の傷害事故補償
- ③ 役員・職員の感染症罹患事故補償
- ④ 雇用慣行賠償補償

プラン4 法人役員等の補償

社会福祉法人役員等の賠償責任補償

● この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約（賠償責任保険、サイバー保険、学校契約団体傷害保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険）です。

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は「保育所・認定こども園の損害補償」手引またはホームページをご参照ください。

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
〈保険会社〉

TEL：03(3349)5137

受付時間：平日の9:00～17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03(3581)4667

受付時間：平日の9:30～17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ24-11619より抜粋)



赤い羽根 情報

田上町共同募金委員会の「赤い羽根共同募金助成」を受け、町内で活動する団体「ひとまち会」が、「人と人をつなぐまちづくり スマホ講習会」を実施しました。ありがとうございました。ありがとうございますメッセージが届きましたのでご紹介します。

スマホ講習会で地域の絆

ありがとうございます
メッセージ

「田上町・

ひとまち会から



ひとまち会は、田上町で「人と人がつながるまちづくり」をテーマに活動する地域活動団体です。赤い羽根共同募金を財源として田上町社会福祉協議会がボランティア団体立ち上げ資金を助成する「地域支え合い活動助成」を活用し、令和3年にスタートしました。主な活動として、スマホをうまく使えない人を対象に「スマホ講習会」を開催しています。

なぜスマホに着目したのでしょうか？ ひとまち会が実現を目指す「ある活動」が背景にあります。

その活動は「支え合いマッチング」といいます。困りごとを抱えている人たちがインターネットを紹介して地域の人たちとつながりを強めて、困りごとを解消することを目的としています。

この取り組みを実現し、さらに広げていくため、スマホでネット活用ができない人を一人でも減らせるように、スマホ講

習会を開催しているのです。

講習会は各行政区を回りながら2カ月に1回ほど定期的に開催しています。どなたでも参加できますが、主に高齢者の方が参加されます。

スマホ操作を教えるのは、田上中学校の生徒たちです。LINEの使い方などを生徒がマンツーマンで参加者に教えます。写真Ⅱ。生徒と参加者が和気あいあいとやりとりする姿は、まさに世代間交流につながっています。学校の協力も得て実現しているこの取り組みは、スマホ操作を習得するだけでなく、それ以上に大切な地域のつながりを強化するという効果も狙っています。

います。

ひとまち会が大切にしているのは、「自分たちで考え、自分たちができることをやっていく」ということです。小さなことから一歩ずつ、でも歩みを進めていけば目標に近づきます。

困りごとを抱える人が、困りごとを地域で解決でき、さらにその人たちも誰かの役に立つことができる—そのような地域の在り方が実現するよう、今後この方針を大切に、さまざまな活動を展開していきます。

スマホ講習会を無事に開催できたのも、町民の皆様のご寄付のおかげです。温かいお気持ちありがとうございます。

石川県共同募金会に126万円 災害等準備金拠出・公告

石川県共同募金会に対し災害等準備金の拠出を行いましたので、社会福祉法第120条第2項の規定に基づき、公告いたします。



令和6年能登半島地震の被災地（石川県及び富山県）の支援として令和5年度に653万円の災害等準備金を拠出したところですが、その後の大雨災害もあって現在も多く市の町村で災害ボランティアセンター等の活動が継続しています。

特に被害の大きかった奥能登地域の災害ボランティアセンターでは運営費の不足が見込まれており、新潟県共同募金会は、活動を支援するため、災害等準備金から126万円を拠出しました。

拠出金は中央共同募金会を通じて石川県共同募金会へ送金されます。

地域に根を張り30年

自閉スペクトラム症と向き合い続け

障害者
支援施設

「太陽の村」

運営…社会福祉法人新潟太陽福祉会
新潟市北区太夫浜字下浜山675番地

☎025(258)6337

新潟市北区の障害者支援施設「太陽の村」は、昨年30周年を迎えた。自閉スペクトラム症の子を持つ親たちの切実な願いが実を結び、平成6年に開設。強度行動障害を伴う人の支援に力を注ぎ続けてきた。今年4月には障害者支援施設併設福祉型障害児入所施設「陽だまり」を新設。近くの住宅地や近隣の学校とも交流を重ね、地域に根を張っています。



新潟太陽福祉会提供

新潟太陽福祉会の全景

「太陽の村」の歩みは、半世紀以上前の昭和48年、新潟市自閉症親の会が結成されたのが始まりでした。会員たちは、障がいを持つ子を残して亡くなる不安から、施設建設に向けて活動を展開。文集発行やバザー開催、国や県、市に陳情を重ね、長年にわたり取り組みを続けてきました。

「太陽の村」には現在、20代から70代まで50人が入



施設内の一角にある「菓子工房ひまわり」。入所者が作業に加わり、主に周辺の地域住民が買いに来るという

福祉の拠点

訪ねて

所しています。運営する新潟太陽福祉会の菊地康晴常務理事は「当初は障がい特性上からの行動に対して周囲の理解を得ることが難しかったのですが、今はもうそんなことはありません」と笑顔で振り返ります。

令和2年には会議室などを備えた管理棟を新設。令和4年には、それまで二人部屋中心だったのを完全個室化しました。新型コロナウイルスがまん延した時には、感染防止に非常に大きな効果を発揮したそうです。

近くには住宅地や、敬和学園高校、新潟医療福祉大学などがあります。住宅地の住民や

学生が施設をサポートしたり、入所者がイベントに参加したり、長い時間をかけて活発な交流が定着。それがきっかけで施設に就職した学生や住民もいます。

課題は利用者・保護者の高齢化と、職員の確保です。「なかなか厳しいですね。ワークライフバランスにそぐわない面もある大変な仕事ですが、『人が人のためになる』ことに魅力を感じて就職してくれる人もいるのは心強い」と菊地常務理事。「イベントや見学を通じて、一般市民の皆さんに存在を知ってほしいです」と力を込めました。

◇ 「太陽の村」開設30周年と「陽だまり」開設を記念し、新潟太陽福祉会では「本人、家族の願いに添える『法人後見』推進フォーラム」を9月16日午前10時半から、新潟市江南区文化会館で開催します。定員250人。参加無料です。



新潟県こころの相談ダイヤル
(365日24時間対応)

0570-783-025

心のSOSを救いたい

9月は新潟県自殺対策推進月間

9月は新潟県が定める「自殺対策推進月間」です。「たった一人のあなたです たった一つの命です」のキャッチフレーズの下、メディアやWeb広告、ポスター、横断幕などを通じて自殺予防を訴えたり相談窓口を周知したりするほか、さまざまな啓発活動を展開します。

人口動態統計（概数）によると、令和6年の新潟県の自殺者は426人で、前年より22人多くなりました。人口10万人当たりの自殺者を示す自殺死亡率は20・5で、全国16・3を上回り、全国2位の

高さでした。県内の自殺死亡率は、全国に比べて高い状況で推移しています。

こうしたことから県では、国が定める自殺予防週間（9月10日～16日）を拡大。自殺対策基本法で定める「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現」を目指して、市町村や関係機関などと連携しながら集中的に取り組みを進めています。

あなたの周囲の人の様子がいつもと違うと感じたら、声をかけ、温かく寄り添い、話を聞き、相談窓口をお知らせしてみてください。

9月15～21日

安心の高齢社会へ みんなでスクラム

「老人の日」「老人週間」キャンペーン

9月15日は「老人の日」。この日から21日までの一週間を「老人週間」として、国や全国社会福祉協議会などは「みんなで築こう 健康長寿と地域共生社会」のスローガンの下、毎年キャンペーンを展開しています。

団塊ジュニア世代が65歳以上になる2040年には、認知症の高齢者が約584万人に上ると推計されています。高齢社会対策基本法に基づく「高齢社会対

策大綱」では、年齢にかかわらず全ての人が状況に応じて「支える側」にも「支えられる側」にもなれる社会を目指しています。

キャンペーンでは①全ての高齢者が自立した生活ができる保健・福祉のまちづくり②高齢者の知識・経験や能力を生かした社会参加、ボランティア活動の推進③高齢者の生きがい、介護予防などへの取り組み推進④高齢者の人権を尊重し、みんなで高齢者や介護



者を支える取り組みを積極的に進める⑤多世代がお互いに協力して安心と活力ある健康長寿社会をつくる⑥災害に備え日頃から地域でつながりを築く⑦の六つの目標を掲げています。

現場の人手不足 どう対応

—— 新潟市で令和7年度第1回福祉団体懇談会 ——



人材確保などについて意見が活発に交わされた福祉団体懇談会＝7月18日・新潟市中央区

障害者団体や老人クラブなど新潟県内の福祉団体が一堂に会する「令和7年度第1回 福祉団体懇談会」が7月18日、新潟市中央区のホテルで開かれ、人材確保などの課題に対して活発な意見が交わされました。懇談会には16の福祉団体代表と県の担当者ら約20人が参加しました。冒頭、6月末に就任した県社会福祉協議会の高井盛雄会長が「人口減少が進んで地域福祉を取り巻く環境が激変している。ネットワークを生かして課題に取り組んでいただきたい」とあいさつし

ました。

県の担当者が取り組みを紹介した後、意見交換に入りました。県老人福祉施設協議会の山田淳子会長が「介護職員の人材が不足して、サービスも縮小せざるを得ない状況」と訴えたのに対し、県高齢福祉保健課の中村章一課長は「ロボット導入などで負担軽減を図ると同時に、外国人の介護人材受け入れにも力を入れている」と説明しました。

ほかの参加者からも発言が相次ぎ、「人材が都会に流れるのは新潟に魅力を感じないから。余暇の過ごし方なども考えないと」（県老人クラブ連合会・富沢哲会長）、「外国人を受け入れるならレベルアップも必要」（県介護福祉士会・大井秀行会長）などの指摘もありました。

会ではこのほか、会員の高齢化と減少が進み、組織を維持していくのが大変、という共通の課題も浮き彫りになりました。



パレット新潟店営業日

2025年 9月							2025年 10月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6				1	2	3	4
7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11
14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18
21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25
28	29	30					26	27	28	29	30	31	

営業時間 11:30～16:30 □…は休業日

福祉の店
パレット情報

編集後記

以前勤めていた新聞社で「読者応答」の仕事に携わったことがあります。読者からの問い合わせや意見、苦情などを電話やメールで受け、質の向上につなげる窓口です。一般企業のお客様相談室のような仕事、というところからやりやすいでしょうか。

新聞配達の仕事から天下国家を論じるご意見まで、寄せられる声は多種多様。時には厳しいお叱りもありました。電話口で罵倒されたり長時間絡まれたりしたこともあり、慣れないうちは大変でした。「カスハラ」が大きな社会問題になる前の話です。

それでも心が折れず、次第に楽しむ余裕が生まれました。全国の新聞社で同じ仕事に携わっている仲間が存在が大きかったと思えます。研修で定期的に顔を合わせ、悩みを語り合ったりアドバイスをもったりして、「また頑張ってみるか！」という勇気が湧いたものでした。

今号では、全国にネットワークが広がる「認知症の人と家族の会」の活動を紹介しました。「苦しいのは自分だけじゃない」「同じ立場で分かち合える人がいる」―その実感は、前に進む力を私たちにどれほど与えてくれることでしょう。この記事が、今孤独な闘いの真っただ中にいる人の目に留まりますように。

(橋)

「福祉にいがた」へ ご意見ご感想、情報をお寄せください

◆TEL 025 (281) 5613
◆FAX 025 (281) 5528
◆Eメール kikaku@fukushiniigata.or.jp

◆新潟県社会福祉協議会企画広報課
〒950-8575 新潟市中央区上所2-2-2
新潟ユニゾンプラザ3階

お待ちしております

この機関誌は、
赤い羽根共同募金の
助成を受け発行しています。



発行所／社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会
新潟市中央区上所2-2-2ユニゾンプラザ
☎ 025-281-5584
発行人／伊野 智彦
定 価／5円（会員の購読料は会費に含む）

福祉にいがた
令和7年9月1日発行（毎月1日発行）
印刷／島津印刷株式会社